

## 第4学年 国語科学習指導案

日時 平成26年 10月10日(金) 6校時  
場所 4年3組 教室  
児童 4年3組 男子15名 女子14名 計29名  
指導者 伊勢 まりか

### 1 単元名 登場人物の気持ちの変化を考えよう(読むこと) 学習材名 「ごんぎつね」 (光村図書 4年下)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、4年生の「白いぼうし」では音読劇によって内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読することを学習してきた。読む速さや声の大きさを変えたり抑揚をつけることを意識したりして、音読する力についてはついてきている。また「一つの花」では、お父さんへの手紙を書く活動によって叙述に即して想像する学習をしてきた。そのため叙述に即して登場人物の気持ちを想像する力や、場面の移り変わりに注意して読む力は徐々に身に付いてきている。

児童はグループ活動に対して積極的である。自分一人で分からないときには児童からグループ活動の時間を設けることを要求することもある。学び合いに関するアンケートでは、友達との学び合いによって自分の考えが深まったり新たな考えを知れたりすることができると考えている児童がいることが分かった。グループ活動の際には、よく発言する児童とあまり発言をしない児童とに分かれることが多い。

#### (2) 学習材について

「ごんぎつね」は、ひとりぼっちで暮らすごんぎつねが、ある日兵十のとったうなぎを盗むといういたずらをし、そのことを後悔し償いを始める話である。ごんは償いとして兵十のところへくりなどを持っていくが、兵十はごんがしたこととは気付かない。そして最後の場面では、ごんは兵十にうたれてしまい、その時によりやく兵十は、くりなどを持ってきてくれていたのはごんだと知る。

この物語は、場面ごとにごんの兵十への思いや気持ちは変化している。情景描写からも登場人物の気持ちを考えることができる。ごんと兵十の関係を追うことによってそれぞれの気持ちの変化を捉えることもできる。またごんの会話文はないが、心内語によってごんの気持ちを想像することができる。場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて叙述をもとに想像して読む力をつけるのに適した学習材といえる。

#### (3) 指導にあたって

本単元では、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に想像して読む力」をつけ「言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付く」ために、言語活動に紹介カードを設定する。登場人物の気持ちを想像してごんになったつもりで日記を書いたり印象に残った場面の絵を書いたりすることによって、場面の移り変わりに注意しながら叙述に基にして想像する登場人物の気持ちの変化を捉えるためである。また、場面によっての気持ちの移り変わりをおさえるために心情曲線で登場人物同士の関係の変化を表す。

第1次では、ごんぎつねがどのような物語かを知るために、教師の範読を聞き初発の感想を書く。また、友達がごんぎつねを読みどう感じるかを知り、人によって感じ方の違いがあることを知るために感想を読み合う活動をする。

第2次では、場面の移り変わりに注意しながら叙述に即して登場人物の気持ちを想像する力をつけるために、ごんや兵十の行動や発言などに注目して気持ちの変化などを読む。その際に行動などだけでなく、景色や呼び方などからも登場人物の気持ちを読み取ることができることを学ぶ。登場人物の気持ちの変化を捉えるためにごんと兵十の気持ちを心情曲線に表す活動をする。学習を進めながら紹介カードを作成していく。

第3次では、2次でつけた力を活用し、ごんぎつね以外の本を読み、自分達で登場人物の性格や気持ち、登場人物同士の関係の変化などを叙述に即して想像して紹介カードを書く。

### 3 単元の指導目標と評価規準

| 観 点             | 目 標   | 評 価 規 準   |
|-----------------|---|---|
| 国語への関心・意欲・態度    | 作品をくり返し読んだり，紹介カードをもとに紹介しあったりしようとしている。                         | おすすめの一冊を紹介するために，作品をくり返し読んだり，紹介カードをもとに紹介しあったりしようとしている。 |
| 読む能力            | 場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や登場人物の気持ちの変化について叙述を基に想像して読むことができる。(1) ウ | 場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や登場人物同士の関係について叙述を基に想像して読んでいる。  |
| 言語についての知識・理解・技能 | 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読むことができる。(1) イ (ア)        | 言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いて文や文章を読んでいる。            |

### 4 単元の「学びのプロセス」の構想 (全 13 時間)

#### 【指導過程】

#### 【問題解決の流れ】と【主な学習活動】

第1次 (2時間)

単元のねらいを知り，  
学習の見通しをもつ。

【関心・意欲・態度】

#### 【主な学習活動】

- ①・「ごんぎつね」の範読を聞き，初発の感想を書く。
- ②・学習の見通しをもち，おすすめの一冊を選ぶ。

第2次 (8時間)

「ごんぎつね」を読み，紹介カードを作り上げていく。

【読む能力】

【言語についての知識・理解・技能】

おすすめの一冊の紹介カードを作るために「ごんぎつね」を読んでいこう。

#### 【主な学習活動】

- ③・時・場・登場人物など物語の設定を確認する。
- ④・ごんの人物像を読む。
- ⑤⑥・兵十とごんの関係の変化を読む。【本時】
- ⑦⑧・印象に残ったところを絵に表し理由を書く。
- ⑨・感想を書く。
- ⑩・できあがった紹介カードをもとに，友達同士でごんぎつねを紹介し合い感想を述べ合う。

第3次 (3時間)

ジャンプの課題  
他の物語を読み，紹介カードを書く。

【読む能力】

おすすめの一冊を紹介したいな。友だちのおすすめを聞きたいな。

#### 【主な学習活動】

- ⑪⑫・おすすめの一冊の紹介カードを書く。
- ⑬・友達と読み合い感想を述べ合う。  
これまでの学習を振り返る。

◆おすすめの本を探すために幅広く読書をする。  
◆場面の移り変わりに注意しながら登場人物の気持ちの変化や登場人物同士の関係を叙述を基に想像して読むことができるようになるためにおすすめの一冊を選び紹介カードを書く。

## 5 本時の指導(5/13)

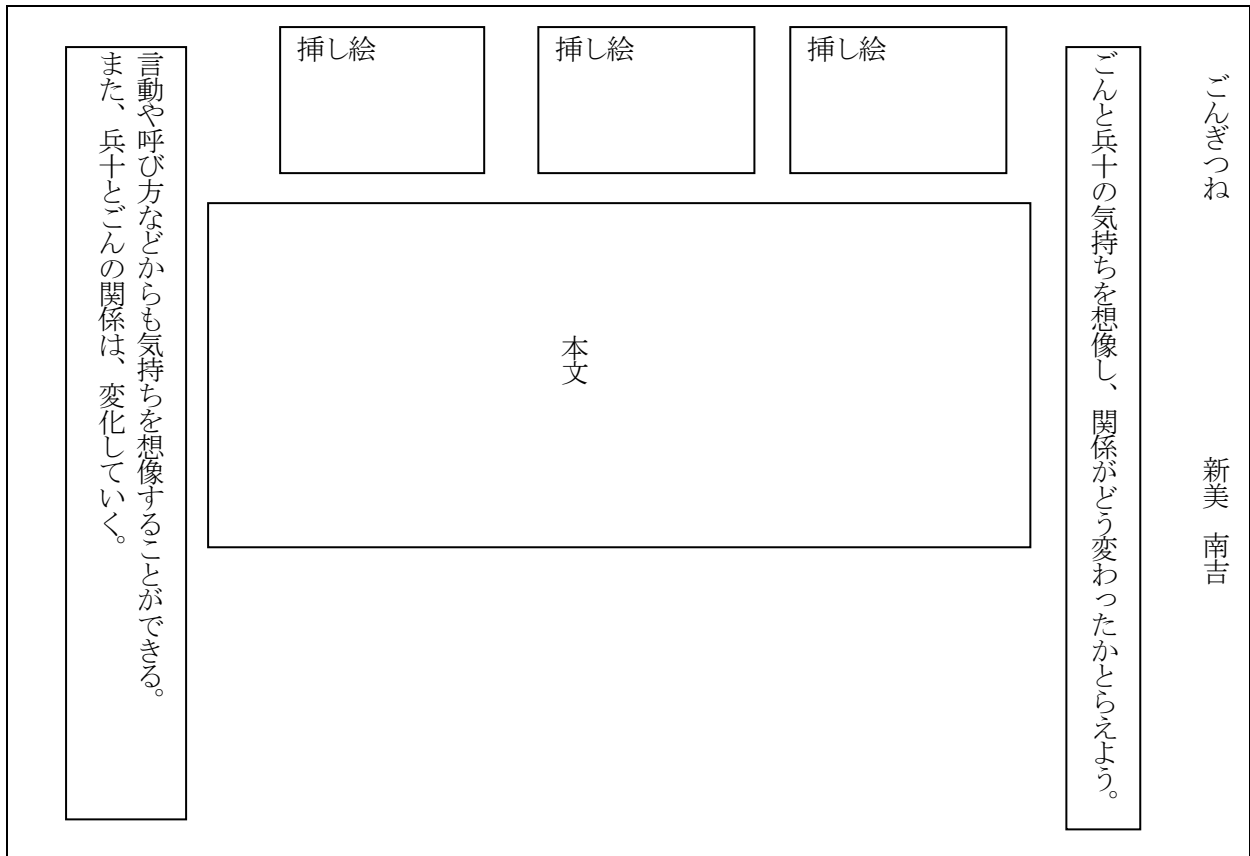
### (1) 目標

○ごんと兵十の気持ちを叙述を基に想像し、登場人物同士の関係の変化を捉えることができる。

### (2) 展開

| 階                  | 学習活動  | 学習内容   | 教師の支援と評価<br>★手立て2(対話)手立て3(課題設定と評価活動)  |
|--------------------|---|--|---|
| つかむ<br>3分          | 1 本時の学習課題を確認する。<br><br>課題<br>ごんと兵十の気持ちを想像し、関係がどう変わったかとらえよう。   |  | ★登場人物の気持ちを本文に添って考えるときに何に着目するかを確認する。そのことによって関係の変化を捉えることに役立てる。  |
| 学び合う<br>ふかめる<br>3分 | 2 学習課題を解決する。<br>(1) ごんと兵十の気持ちが想像できる文に着目しながら音読をする。<br>◆個人<br>(2) 兵十のごんに対する思いを読む。<br>・思いが表れている部分を確認し、なぜそう読んだかを考える。<br>◆個人→グループ<br>(3) ごんの兵十に対する思いを読む。<br>◆個人→グループ<br>(4) ごんと兵十の気持ちのすれ違いをとらえる。 | ○ごん・兵十の性格や境遇などを考えること<br>○叙述を基に想像して読むこと<br>○言葉には気持ちを表す働きがあること | ★場面とともに気持ちがどのように移り変わっているかを考えさせる。<br>★それぞれの言葉から相手へのどのような気持ちが表れているかを考え学び合わせる。<br>★登場人物の行動や発言などを、現実のことや自分の経験と照らし合わせて考えるように助言する。<br>★板書を活用して、登場人物の関係の変化をとらえるようにする。<br><br>〈評価〉<br>ごんと兵十のお互いへの気持ちを叙述を基に想像して、登場人物の関係の変化をとらえている。【読むこと】<br>〈評価方法〉 発言・ワークシート |
| ひろげる<br>5分         | 3 学習をふり返る。<br>・学習してわかったこと<br>・がんばったこと<br>4 次時の学習内容を確認する。  |  | ★叙述を基に想像して読むことによって、最初の読みのときよりも読みが深まったことを受け止め、価値づける。<br>★次時は、関係の変化を紹介カードに書くことを確認する。  |

(3) 板書



(4) 座席表

黒板

